

**製品名: MSH3 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14172**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	127kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MSH3
別名	MSH3; DUC1; DUG; DNA mismatch repair protein Msh3; hMSH3; Divergent upstream protein; DUP; Mismatch repair protein 1; MRP1
遺伝子 ID	4437.0
SwissProt ID	P20585
免疫原	抗血清はヒト MSH3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

**背景**

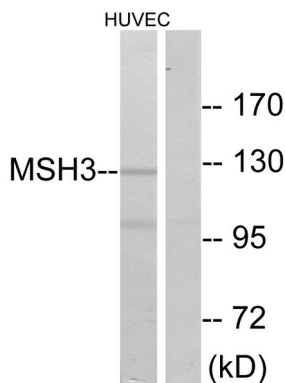
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MSH2 とヘテロ二量体を形成し、複製後 DNA ミスマッチ修復システムの一部である

MutS beta を形成します。MutS beta はミスマッチに結合し、MutL alpha ヘテロ二量体と複合体を形成することでミスマッチ修復を開始します。この遺伝子は、第 1 エクソンに 9 bp の多型タンデムリピート配列を含みます。このリピートは参照ゲノム配列中に 6 回存在し、3~7 回のリピートが報告されています。この遺伝子の欠陥は、子宮内膜がんの感受性の原因となります。[RefSeq 提供、2011 年 3 月];疾患: MSH3 の欠陥は、子宮内膜がんの感受性の原因となります[MIM:608089]。機能: 複製後 DNA ミスマッチ修復システム (MMR) の構成要素。MSH2 とヘテロ二量体を形成し、MutS beta を形成します。MutS beta は DNA ミスマッチに結合し、DNA 修復を開始します。結合すると、MutS beta ヘテロ二量体は DNA らせんを曲げ、約 20 塩基対を保護します。MutS beta は、最大 13 ヌクレオチド長の大きな挿入欠失ループ (IDL) を認識します。ミスマッチ結合後、MutL alpha ヘテロ二量体と三量体複合体を形成し、これが鎖識別、切除、再合成などの下流の MMR イベントを誘導すると考えられています。PTM: DNA 損傷時にリン酸化されます (おそらく ATM または ATR による)。配列に関する注意: 汚染配列。ポリ A 配列の可能性がありますが。類似性: DNA ミスマッチ修復 mutS ファミリーに属します。MSH3 サブファミリー。サブユニット: MSH2-MSH3 (MutS beta) からなるヘテロ二量体。MutL $\alpha$  (MLH1-PMS1) と三量体複合体を形成する。EXO1 と相互作用する。

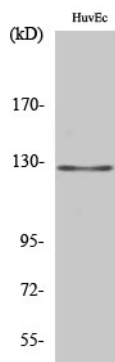
## 研究分野

ミスマッチ修復;がんにおける経路;大腸がん;

## 画像データ



MSH3 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 に希釈した MSH3 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。